

沖縄・八重山諸島のイバラモ属植物

内山 寛*

日本には約10種のイバラモ属植物が知られており(角野, 1988)、南西諸島からはイバラモ、トリゲモ、サガミトリゲモ、ホッサモの4種が報告されている(初島, 1971; Walker, 1976; 大滝, 1989; 川窪・田川, 1991)。これらのうちトリゲモとホッサモは南西諸島に広く分布しているが、イバラモはまれであり(種子島、喜界島、奄美大島、南大東島)、サガミトリゲモは三木茂先生が沖永良部島で採集した標本が引用されているだけのようである。そして、八重山諸島からはトリゲモとホッサモの2種が報告されている。

著書は、これまでに八重山諸島において数回の水生植物(特に海草)の調査を行い、同諸島に自生するイバラモ属植物として、トリゲモsp.、イトトリゲモ、サガミトリゲモ、ホッサモの4種を確認することができたのでここに報告する。イトトリゲモが南西諸島に自生することが確認されたのはこれが初めてと思われる。また、これら4種の染色体数についても調査を行ったので併せて

報告する。

調査した島は、石垣島、西表島、小浜島、波照間島、与那国島で(図1)、調査は1987年3月、1990年4月、1991年11月、1992年7月に行った。

採集した植物は腊葉標本および液浸標本を作製したほか栽培し研究した。染色体は採集地で、または栽培中によく生長している根端をとり、Uchiyama(1989)の方法により観察した(図2)。

八重山諸島に自生するイバラモ属植物として、トリゲモsp.、イトトリゲモ、サガミトリゲモ、ホッサモの4種を確認することができた。八重山諸島においては、それら4種はいずれも水田とその周辺の水域および灌漑用ため池に、シャジクモ類、ミズワラビ、デンジソウ、ミズオオバコ、マルミスブタ、オモダカ、コナギなどと共に生育していた。

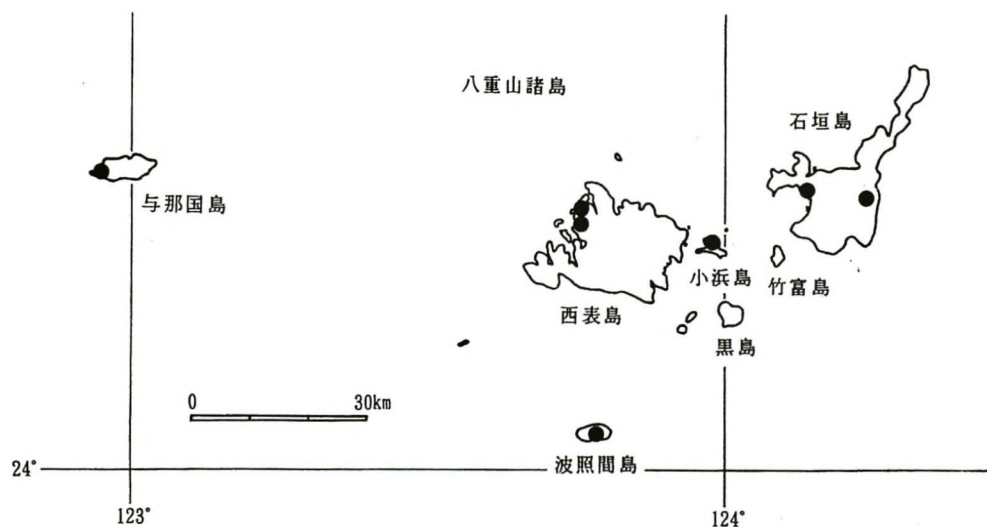


図1. 八重山諸島の略図。イバラモ属植物を採集した地点を黒丸で示してある。

* 日本大学農獣医学部

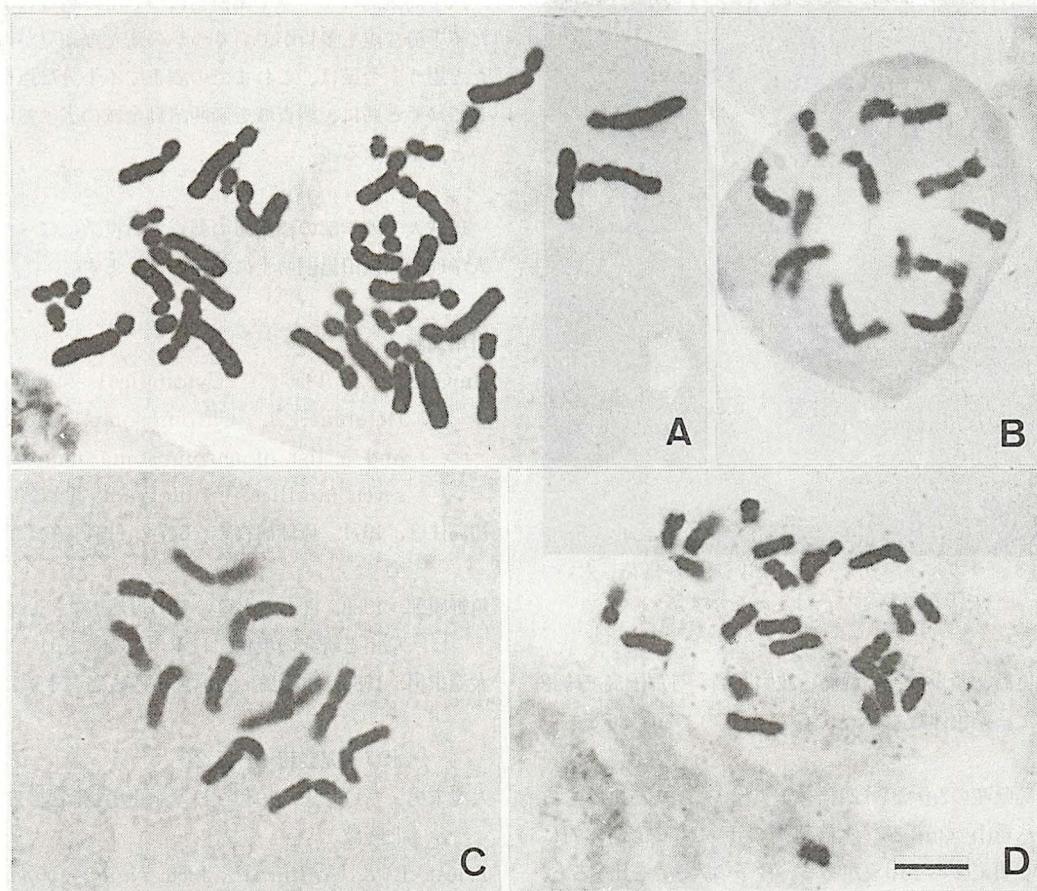


図2. 体細胞分裂中期の染色体像。A : ホッサモ $2n=36$, 与那国島産。B : イトトリゲモ $2n=12$, 石垣島産。
C : サガミトリゲモ $2n=12$, 小浜島産。D : トリゲモsp. $2n=24$, 石垣島産。バーは $5\mu\text{m}$ を示す。

1. トリゲモsp. *Najas* sp.

石垣島、西表島、波照間島で確認できた。染色体数は $2n=24$ であった。

トリゲモはオオトリゲモとの区別が困難であり、雄花の葯室数で区別されるが、今回それを観察することができなかったので、トリゲモsp. としておく。台湾にはトリゲモとオオトリゲモの両種が分布しているので(大滝・石戸, 1980)、八重山諸島にも両種が分布している可能性があり、今後詳しく調査する必要がある。

2. イトトリゲモ *Najas japonica* Nakai

石垣島、西表島、小浜島で確認できた。染色体数は石垣島と小浜島のもので $2n=12$ であった。

イトトリゲモが南西諸島に分布することが確認された

のはこの報告が最初であると思われるが、琉球大学理学部に保管されている石垣島で採集されたホッサモの標本(RYU 17977)中に、イトトリゲモが混ざっていた。

3. サガミトリゲモ *Najas foveolata* A. Br.

西表島と小浜島で確認でき、染色体数は両島のもので $2n=12$ であった。

サガミトリゲモは最近新種として報告された *Najas orientalis* (Triest & Uolitla 1986)との区別が困難である。今回は、小浜島の標本において雄花と雌花がそれぞれ別の葉腋についているのが確認できたことからサガミトリゲモとした(図3)。

4. ホッサモ *Najas graminea* Del.

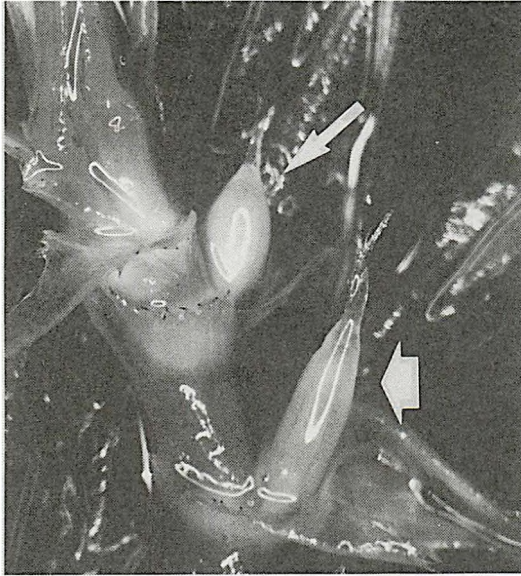


図3. サガミトリゲモの花。細い矢印が雄花、太い矢印が雌花。バーは1mmを示す。

石垣島、西表島、小浜島、波照間島、与那国島で確認できた。染色体数はすべての島のもので $2n=36$ であった。

広島県産の $2n=24$ (四倍体) のホッサモと比較すると、八重山の $2n=36$ (六倍体) のホッサモは全体的に大きく頑丈である印象がある。種子の大きさを比べると、四倍体は長さ 2.32 ± 0.06 mm、幅 0.53 ± 0.02 mm ($n=25$)、六倍体は長さ 1.84 ± 0.09 mm、幅 0.60 ± 0.06 mm ($n=58$)であり、種子の長さが四倍体の方が六倍体よりも長かった。

染色体数に関しては、今回の観察結果は以前の報告と一致するものであった (Harada 1956, Uchiyama 1989)。イバラモ属には種間や種内で倍数性があることが知られているが、倍数性と形態や分布との関係は詳しく調べられていないので、今後多くの材料を集め調べてゆく必要がある。

八重島諸島のイバラモ属植物についての調査はまだまだ不十分な点も多いが、いくつかの新たな知見が得られたと思う。今後は、これまでの調査で不十分な点を解決してゆくと共に、調査域を南西諸島全域に広げてゆきたいと思っている。

琉球大学理学部の標本庫の調査でお世話になった琉球大学理学部横田昌嗣博士に感謝いたします。

引用文献

- Harada, I., 1956. Cytological studies in Helobiae, I. Chromosome idiograms and a list of chromosome numbers in seven families. *Cytologia* 21:306-328.
- 初島住彦, 1971. 琉球植物誌. 647p. 沖縄生物教育研究会.
- 角野康郎, 1988. 日本のお草 その自然史②. 日本のお草相と研究の現状. *日本の生物* 2(9):20-25.
- 大滝末男, 1989. 沖縄島・石垣島・西表島のお草について. *水草研究会報* 37:17-24.
- 大滝末男・石戸 忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 318p. 北隆館.
- Triest, L. & Uolittle, P., 1986. *Najas orientalis*, a rice field weed in the Far East and introduced in Turkey. *Ann. Bot. Fennici* 23: 169-171.
- Uchiyama, H., 1989. Karyomorphological studies on some taxa of the Helobiae. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 2*, 22: 271-352.
- Walker, E. H., 1976. *Flora of Okinawa and the Southern Ryukyu Islands*. 1159p. Smithsonian Institution Press, Washington, D. C.